みんなの宝 桜 新聞

発行者
木次小学校
4年
村尾和奏

つたえようつなげよう ふるさとの桜への思い

わたしが住んでいる木次町は、桜が有名な町です。春はまん開の桜がさいて、県外からも多くの人が見に来られます。わたしは、そんな有名な桜を自まんに思っています。でも、今年は桜を見に来る人が少なくて悲しい気持ちになりました。

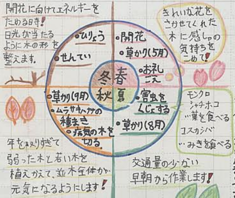
きれいな木次の桜のために、多くの人たちがいろんなところで関わってくださっています。

「どうして木次の桜は大切にされているのか」

そこには昔の人たちから続く桜への強い思いがありました。わたしは、その思いをこれから先もずっと伝えていきます。

桜のお世話について桜守さんに聞きました。

そう合の学習で桜守の遠田さんに桜のお世話について話を聞きました。桜並木の桜は長生きしているので、そのお世話が大変です。春にきれいな花をさかせるために、一年中働いておられるのです。



桜守の遠田さん

知っていますか？ 斐伊川堤防桜並木のこと

2020年は日本さくら名所100選30周年の記念の年
1990年に選ばれました。

桜並木は2Km
約800本のソメイヨシノなどが植えられています。一本一本に「さくら台帳」があって、木の様子が細かく書かれています。

桜の木は80〜90年くらい長生きしています。ふつう50〜60年くらいなので桜守さんなどたくさんの人によって大切に育てられています。

昭和のはじめ、木次小学校の子どもたちが自分の木を決めて大切にお世話をしていました。今もまだ、その木は残っています。

もともと木次は水害が多い土地でした。斐伊川があふれて堤防がこわれそうになった時、桜の木が助けてくれたのです。

春
夏

夏は葉っぱのトンネルすずしいです。

わたしときすき桜まつり

生まれて初めて見た桜の花。毎年必ずまん開の桜を見に行きます。

(2011年4月)

5才の時からステージイベントに出ています。わたしも桜まつりをもり上げるのに役に立てたことがとてもうれしいです。

(2016年4月)

きすき桜まつりについて市役所の方に聞きました。

Q いつから桜まつりは始まりましたか。

A 昭和26年です。今から70年くらい前、さくらにぼんぼりをつけました。

Q 今までで一番多く人が来たのはいつですか。

A 平成29年です。13万人の人が来ました。

Q どこから来られるお客さんが多いですか。

A 県外だと広島県です。

Q どんな気持ちで桜まつりを計画していますか。

A 多くの人に来てもらって木次の桜を楽しんでほしいです。

雲南市役所 伊藤さん

桜の木の根をふまれないように、ムラサキハナナを植えている。
↑夏の花だん
↓春の花だん

見つけた！ 木次の町の「さくら」

さくらの絵があるマンホール

部活とスポ少の服にもピンクが使われている！

桜ぞめを通して伝えたいこと

木次で桜ぞめをしておられる吾郷康子さんに話を聞きました。吾郷さんは木次の桜を多くの人に知ってもらうために、桜ぞめを思いついたそうです。

桜ぞめはとてもむずかしくて、きれいな桜色を出すのに何年もかかりました。今でも、布にそめてみるまで、どんな色になるかわかりません。

そして桜ぞめでは、花ではなくて木を使うのです。冬に桜守さんたちが手入れのために切った枝を使います。冬の時期の小枝には、春に花をさかせるためのピンク色が集まっています。桜の木は、冬の寒さの中で、りっぱな花をさかせるためのエネルギーをためているのです。

桜ぞめの布を見ると、4月のきれいな桜を思い出します。

「木次の人にとっては、桜は身近なものであるのが当たり前に思うでしょう。ふるさとの桜のすばらしさを知り、いつまでも大切に守ってほしいです。」と吾郷さんは話しておられました。その思いがあるから、どんなに大変な作業でも桜ぞめに取り組むことができるのです。

桜ぞめのスカーフ

吾郷さんの話「昔から大切にされていた木次の桜」

桜はこれまで何回もばっさいされかけました。桜のお世話をしていた木次小の子どもたちが戦争に行っている時、木が必要になりましたが「戦争から帰ってきた時、自分の木がなくなっていたら悲しむだろう」と言って木次の人たちは桜の木を守ったのです。今もずっと大切に守られています。

わたしの自まん 桜がいっぱい木次小学校

わたしが通う木次小学校は、通学路に桜がたくさん植えられています。春にまん開の桜の下を毎日歩くことができる木次小の子どもたちは幸せです。

3年生では、総合の時間に桜について調べて発表します。げきやポスターで発表する年もあります。わたしたちは、グループで、タブレットを使って新聞を作りました。友達の新聞を読んで、もっとくわしく知ることができました。

へん集後記

今年は桜まつりが中止になり、桜を見に来る人がへってさみしかったです。でも、桜はいつもと変わらずきれいな花をさかせてくれました。きっと、桜を大切に思ってくれる人たちへの桜の恩返しだと思います。この新聞では、学校で学んだことや自分で調べたことをまとめました。読んでくださった人に木次の桜を好きになってもらいたいです。